

新潟大学 遺伝子倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	子宮内膜症及び子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子解析研究
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
2006 年 7 月～2025 年 3 月までの間に当院外来を受診され、 申請番号： G2006—0239「卵巣癌病態解明を目的とした遺伝子発現解析」（研究責任者：田中憲一） G2015—0701「子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子解析研究」（研究責任者：榎本隆之） G2017—0010「子宮内膜を起源とする子宮内膜関連疾患の病態解明を目的とした子宮内膜遺伝子解析研究」（研究責任者：榎本隆之） G2018—0006「婦人科悪性腫瘍の発がん・進展メカニズムの解明を目的とした遺伝子発現解析」（研究責任者：榎本隆之） G2019—0038「子宮内膜症関連卵巣癌の病態解明を目的とした遺伝子解析研究」（研究責任者：榎本隆之） に同意をいただき、手術検体の一部組織、血液を採取された方が対象になります。	
③概要	
卵巣癌のうち、明細胞癌や類内膜癌といった組織型は、良性の子宮内膜症を発生母地とすることが疫学的病理学的に証明されており、子宮内膜症関連卵巣癌とされています。しかし、などのような機序で子宮内膜症から卵巣癌が発生するのかわかっておらず、有効な治療法や予防法の開発には至っておらず、重要な課題となっています。ほとんど全ての癌は遺伝子異常によって起きると考えられています。子宮内膜症関連卵巣癌も同様に遺伝子異常が起きていると考えられており、すでにいくつかの原因となる遺伝子変異が報告されていますが、良性の子宮内膜症からどのような遺伝子異常を経て癌に発展していくかについては、はっきりと分かっていないのが現状です。その理由の一つに、癌の発生母地となる子宮内膜症自体の発症メカニズムがわかっていないことが挙げられます。当研究室では、子宮内膜症や卵巣癌の診断で手術をされた患者様の手術検体の一部を分与いただき、子宮内膜症組織と卵巣癌組織の遺伝子解析を行うことで、どのようにして子宮内膜症から癌が発生するのかを解明し、発症予防、また新たな治療法の開発に貢献することを目的として本研究を計画いたしました。また、過去の研究課題で手術検体の一部組織、血液を提供していただいた方に対して、こちらの研究でもそれらの試料を利用させていただき、遺伝子解析を行わせていただきたいと思います。	
④申請番号	G2025-0006
⑤研究の目的・意義	本研究は、正常子宮内膜、子宮内膜症、内膜症関連卵巣癌を対象とした全ゲノムシーケンス・全エクソンシーケンス・ターゲットシーケンスにより、網羅的に体細胞遺伝子変異を同定し、さらに RNA レベルで

	の発現解析を行うことで子宮内膜症および内膜症関連卵巣癌に存在する遺伝子変異の分子生物学的意義を明らかにすることにより、子宮内膜症の癌化のメカニズムを解明し、新たな検査法・治療法の開発に貢献することを目的としています。
⑥研究期間	倫理審査委員会承認日から5年間
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	採取された試料は、鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 データサイエンス分野で解析を実施する。ただし、情報は特定の個人を識別することができないように加工した状態で共同研究機関と試料のやりとりを行います。
⑧利用または提供する情報の項目	遺伝子体細胞変異情報および臨床情報（年齢、性別、病理組織診断、等）
⑨利用する者の範囲	新潟大学および以下の共同研究機関等に遺伝子解析情報や臨床情報で利用いたします。 新潟大学医歯学総合研究科 産婦人科学教室 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 データサイエンス分野
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院総合研究科産科婦人科 准教授 安達聡介 新潟大学大学院総合研究科産科婦人科 教授 吉原弘祐
⑪お問い合わせ先	本研究に対する同意の撤回や研究に関するご質問等ございましたら下記にご連絡をお願いします。 新潟大学大学院総合研究科産科婦人科 谷地田希 Tel：025-227-2320 E-mail：nyachida@med.niigata-u.ac.jp